

Q14：もともと排尿障害のある患者さんや高齢者の場合、風邪薬などによって尿閉になることがあると聞きました。ですがたまに、飲酒後に尿閉となって入院してくる方がいます。これはどうゆうメカニズムでなっているのでしょうか？

A：詳細なメカニズムは解明されていません。

解説：現時点でアルコール(エタノール)が排尿・蓄尿機能に対して直接的、または間接的に作用して尿閉を起こさせるようなメカニズムは解明されていません。また、今までに前立腺体積と飲酒に関連があるという報告もありません<sup>1,2)</sup>。しかし、実際臨床の現場ではアルコール摂取によって生じたと推定される尿閉に遭遇する事例が確かに存在します。そのような場合は夜間から早朝にかけての時間帯がほとんどで、少量の飲酒後ではなく多量の飲酒後であることが多い印象があります。こうした事態に陥る原因の一つとして、アルコールに伴う利尿作用によって尿量が急に増加することで膀胱が過進展し、膀胱平滑筋が収縮できなくなってしまうために生じるのではないかという考えがあります。しかし、排尿には前立腺や膀胱の機能だけでなくホルモンや神経や加齢、気温やその他多くの要素が複雑に関係していますので、原因は一つではないでしょう。したがって現時点では、飲酒後の尿閉は確かに存在し、元々排尿の調子が悪い患者さんに生じやすい傾向があります。そのような患者さんには前立腺肥大の程度にかかわらず、過度の飲酒を控えるようにしっかりと指導しましょう。

- 1) 日本泌尿器科学会編. 前立腺肥大症診療ガイドライン. リッチヒルメディカル株式会社,2011,111.
- 2) 温井雅樹ほか. 前立腺重量と食事、喫煙、飲酒の関係についての疫学的検討. 日泌会誌 1997,88,950-56.